飢餓対策 NEWS　第 256 号　発行日 2011 年 10 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

国際協力カレンダー「地球家族」2012 年版

【壁掛け型】　縦約 54㎝×横 36㎝
フルカラー中綴 1 部 1,050 円(送料別)
【卓上型】　縦約 12.5㎝×横 16㎝
フルカラー 7 枚、525 円（送料別）
ぜひお求めください！　壁掛け型カレンダーは、名入れも承っております。
お申し込み、お問い合わせは
㈱キングダムビジネス
　TEL(072)940-6814
　FAX(072)940-6824
ウエブサイトからお申し込みもできます。
http://www.kbwin-win.org/

世界里親会

子どもたちにクリスマスカードを！

子どもたちは里親さんからのクリスマスのお便りを楽しみにしています。
カードをお送りの際は――
①里子 ID 番号を必ずお書きください。
②里親様のお名前にはフリガナをお願いします。
③カードは 11 月 15 日㈮までに世界里親会（大阪）に届くようお送りください。期日を過ぎますとクリスマスまでに子どもたちに届かない場合があります。
④里子あてに現金や品物を送ることはお控えください。
⑤カードの受け取り確認はがきが**必要な方**は、その旨をお書き添え下さい。
お問い合わせは、世界里親会（大阪事務所）までご連絡ください。

物資倉庫での物資支援終了

東日本大震災に被災された方々への緊急及び復興支援を応援するために仙台市若林区卸町東の「物資倉庫」での配布活動は 10 月末をもって終了いたしました。これまで全国各地から支援物資をご提供いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

□ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
　毎月（　　）口　（1 口 1,000 円）
□ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
□ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
　毎月（　　）口　（1 口 1,000 円）
□ JIFH（日本国際飢餓対策機構）サポーターとして協力します。
　毎月（　　）口　（1 口 500 円）
□ 金融機関の自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女

〒
フリガナ
住所：

（電話）

▼申込日：　　年　月　日▼

FAX・072-920-2155

募金ができます クレジットカードやコンビニからも

インターネットを閲覧できる支援者の皆さまを対象に、クレジットカード及びコンビニエンスストア (店頭) ご利用による募金をしていただけるようになりました。
募金方法は、従来のゆうちょ銀行に加えてその他金融機関、クレジットカードでのお支払い、コンビニエンスストアからのお支払い方法が可能です。
㊟ 継続募金をご希望の方は、コンビニでのお支払いはご利用できません。詳しくはホームページをご覧ください。
なお、スマートフォン、ＰＨＳ電話からは利用できません。

銀行でのお支払い：ゆうちょ銀行　その他金融機関
クレジットでのお支払い：VISA　MasterCard
コンビニでのお支払い：セブン-イレブン　FamilyMart　Seicomart　LAWSON　サークルK

ハンガーゼロ・サポーター　1605口。さらに運動をひろげていきましょう！

★ご協力を感謝します★皆様に飢餓対策ニュースをお届けするために、毎月、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛（大阪市など）、そして関西一円のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。ありがとうございます！

■発行者　岩橋竜介
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
Web サイトアドレス　http://www.jifh.org/
e メールアドレス　general@jifh.org
■郵便振替　00170-9-68590 ／日本国際飢餓対策機構
※支援金は随時受け付けております。

大　阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
TEL (072)920-2225　FAX (072)920-2155
東　京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室
TEL (03)3518-0781　FAX (03)3518-0782
愛　知　〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F
TEL (052)731-8111　FAX (052)731-8114
広　島　〒731-0103 広島市安佐南区緑井 2-21-23 201 号
TEL (082)831-1214　FAX (082)877-3961
沖　縄　〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201号
TEL (098)859-4585　FAX (098)859-4540
東　北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1- 13- 6エマオ2階 E
TEL (022)217-4611　FAX (022)217-6651

日本国際飢餓対策機構　2011 No.256　11

飢餓対策News

フィリピン・ミンドロ島マンヤン人の子どもたちの給食の様子（子どもの教育支援と地域開発）

沖縄の「ちむぐくる」を東日本へ、そして世界へ

今年も全国19ヵ所で世界食料デー大会が開催されました。各大会には多くの方々が参加してくださり、特に東アフリカの大干ばつによる飢饉や東日本大震災によって被災された方々への募金やハンガーゼロサポーターの申込をいただくなど、具体的にアクションを起こしてくださったことを感謝致します。

タイトルのことばは、そのひとつ世界食料デー大会沖縄大会のサブタイトルです。文中の「ちむぐくる」とは、漢字では「肝心」と書き、「人の心に宿るより深い想い」、「真心、思いやりの心」を意味し、沖縄の人々の「心の奥底から湧き上がる身体全体で相手を思う気持ち」を表す言葉です。他の大会と同様に、東日本大震災で被災された方々に、そして世界で飢餓と貧困と闘う人々に「ちむぐくる」を届けたいとの思いが込められています。

人と人をつなぐ大切な心がここにあると感じます。沖縄には同じように人と人をつなぐ言葉が多くあります。「ゆいまーる」もその一つでしょう。「ゆい」とは「結」と書き、共同・共働を意味し、「まーる」は順番という意味で、サトウキビの収穫などを自分の畑だけでなく、他者の畑の収穫も助けながら共に生きてゆく「共生社会」の姿です。

25年にも亘り、全県をあげてハンガーゼロの世界を共に目指してきた沖縄の人々の、具体的な行動の原点がこの言葉に表されているように思います。

ネット上で東アフリカの状況を検索していると、その記事に閲覧者のコメントを書き込める掲示板が多くあります。それを眺めていると、あまりにもひどい書き込みが多く、怒りを覚えます。飢餓で苦しむ人々、ゲリラの襲撃で住む所を追われ避難民となっている人々への支援は無駄、支援するに値しないと書き捨てています。経済的に豊かな者こそが生きるにふさわしいというのです。傲慢極まりない態度だと思います。私たちの豊かさがどれほど多くの国々によって支えられているかを決して忘れてはなりません。

同じ人間として「地球家族」の一員として、一人ひとりの心に「ちむぐくる」が生まれる時、人と人とがつながり、誰もが生きられる「共生社会」が実現してゆくのです。

「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」

（新約聖書ピリピ2章3節、4節）

国内啓発総主事　田村治郎

1 分間に 17 人（うち 12 人が子ども）・1 日に 2 万 5 千人・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

2011世界食料デー スタッフ現地報告から

フィリピンの子どもの教育と地域開発

マンヤン学校給食プログラム

子どもの教育支援は、将来の村づくりの為には欠かせないものです。しかし教育を受けた子どものうち、一部の子どもたちは村に残るとしても、優秀な子どもたちほどよい収入をもとめて都会に出ます。私たちはこの現実にも目をとめて村づくりを考えていかなればなりません。そこで、地域社会の現状にあう効果的な支援を進めるために、プログラムを指標化して計画を立ています。

フィリピン駐在：酒井保＆慶子

場所：東ミンドロ州ナウハン県サンアンドレス村
期間：2008年～2017年（予定）
活動内容：コミュニティ開発
対象：約1,200 人　世帯数250
　　マンヤン人約120人（世帯数不明）

A 教育改善プログラム

公立学校の質的向上を、PTAと地域のキリスト教会と協力しておこなっています。子ども達には学ぶ意欲を、保護者には子どもへの教育の理解を促進するのが目的です。

[主な活動]
価値観教育（教材支援）、保護者セミナー、学用品支援、課外活動支援

B 教育支援（スクールバス）

交通手段を提供することで進学率を高め、中等教育を終了する機会を増やすのが目的。現在57名が２台のバスで通学しています。また、一人ではできないことでも当事者（この場合は保護者）が協力すれば解決できる問題があるということを体感してもらうことも目的のひとつです。

[主な活動]
スクールバス資金支援、運営支援・青少年活動支援

C 指導者育成

地域社会の成長は指導者によって決まるといっても過言ではありません。村の指導者の質的な向上を支援。また、村にある様々なグループ（議員、教会等）の人々と共働できるように関係改善の手助けをしています。

[主な活動]
指導者育成セミナー

D 生活改善

農業の質的改善と現金収入の機会を増やすのが主たる活動。収入が増えた場合、管理する能力が必要なので、管理能力、運営能力の向上にも焦点をあてて支援しています。

[主な活動]
養豚支援、石けん作り、家計簿作成、ビジネスセミナー

E 保健衛生改善

公的な保健衛生サービスの改善

[主な活動]
歯科検診支援、栄養改善セミナーの開催、コミュニティの保健衛生ボランティアへのトレーニング

F マンヤン人生活改善

私たちが関わっている村のマンヤン人の成人で正式に学校を卒業した人は、一人もいませんでした。今後自分たちで様々な問題を主体的に解決してもらうためには識字は必須です。そこから次のステップにすすめています。マンヤン人は基本的には他の人々と何かを一緒にするという文化はありません。またタガロク人に虐待、差別されてきた歴史的な経緯があるために信頼関係が乏しいので、マンヤン人への生活支援と共にタガロク人と共働する機会を提供し、相互理解を深め信頼関係が生み出されることを期待しています。

[主な活動]
識字教育支援、ビーズクラフト作成、販売支援、学用品支援（小学生）、奨学金支援（高校生）

●フィリピンの子どもと地域開発、酒井夫妻への支援については大阪事務所までお問い合わせください。

▲シープケアセンターの子どもたちにパン缶を届けた秋元さん

干ばつの地 ケニア北部でみた衝撃

ハンガーゼロ特別大使　秋元義彦（パン・アキモト社長）

９月12日から10日間、JIFHの清家常務理事とアフリカ東部の干ばつ地域の視察のためにケニアに足を運びました。私にとって初めてのアフリカ訪問だったので、自身の肉体と精神の健康維持が重要課題でもありました。５日間で1,800㎞を越えるオフロード車での爆走移動には、体力的にも精神的にも大変な試練の連続でした。しかし自国の現状を見つめ必死に活動するＦＨケニア（国際飢餓対策機構ケニア）のスタッフの姿に感銘し、与えられたミッションに全力で当たりました。

干上がった大地

ケニア北部マルサビット州は首都ナイロビから600㎞の赤道直下。 約３年間雨が降らず、農地も山も河川も干上がった大地に変貌していました。作物のない農家、エサ不足で家畜を失い砂漠の中をさまよう遊牧民、そして国連やＮＧＯからのわずかな配給食料だけで生き延びている難民の集落。見るに堪えない情景の連続でした。

飢餓と内戦に苦しむ隣国ソマリアから、すでに40万人以上が難民となってケニアに流入、毎日のように数百人ずつ増加しています。治安も非常に悪く、国連職員だけでなく、支援を担うＮＧＯスタッフにも警護を付けないと移動できない状態でした。

自立にむけて懸命な努力

そのような中で、世界からの支援物資を点々とする集落へきめ細やかに集配するＦＨのスタッフ、ところどころに所在する母子センターでの支援、水確保を含む農業指導、ＨＩＶ医療支援そして初等教育現場での給食支援など、ＦＨの活動は同国の再生に重要な役割を果たしている様子がうかがえました。

ケニアでは初等教育は制度的に義務化されていますが、貧困のため教科書や制服が買えず、給食費も払えないため通学できない子ども達が多数存在しています。その受け皿として私財をなげうって私設の小中学校を建てる若いリーダーも出てきています。このような若い世代のリーダーやその支援者は、与えてもらうのではなく、ケニアとして自立し国の基盤を作っていこうと一生懸命です。

FHケニアによる緊急支援で小麦や調理用油が配布されていた

継続的にもう少し支援が必要な国ですが、確実に前進している光景は涙無しには語れません。弊社もパンの缶詰「救缶鳥プロジェクト」で支援を拡大していきます。

●東アフリカへのご支援は　郵便振替00170-9-68590　日本国際飢餓対策機構　記入欄にソマリアと明記。

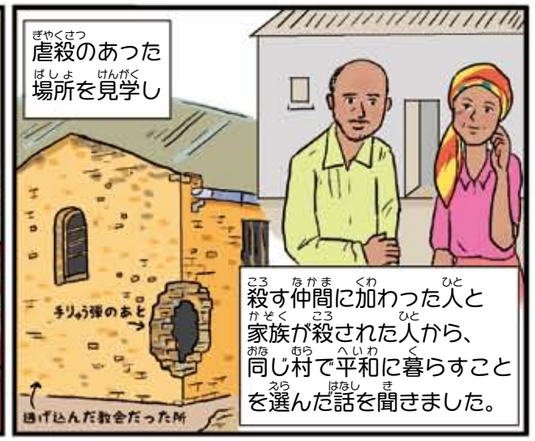
パン・アキモトのウエブサイトは　http://www.panakimoto.com/contact/index.html

アフリカに行って見たこと　その④

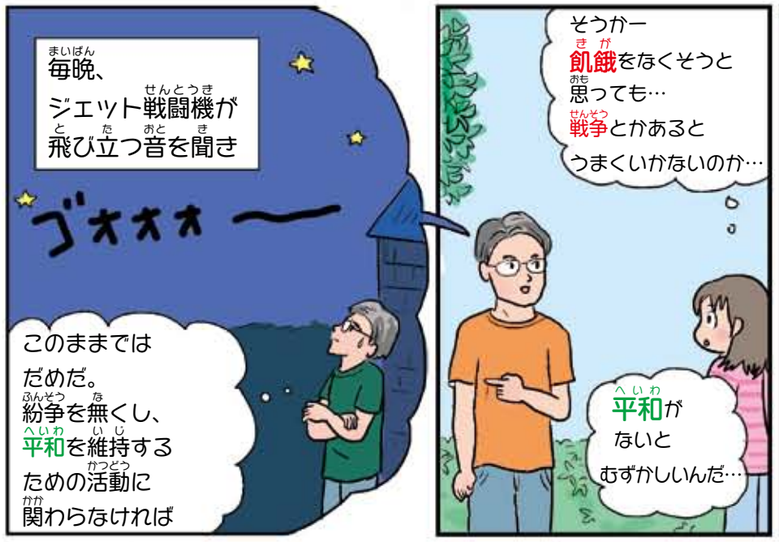
平和のために（1）

みなみななみさんが今年1月16日から2月8日まで、アフリカ研修ツアーに行って見た事の続きです。

え／みなみななみ



※ NGOの REACH(Reconciliation Evangelism And Christian Healing for RWANDA)地元のNGOで平和のとりくみを行っている団体



参考　「キリスト教系 NGOの挑戦 修復的正義による和解を目指して」　http://rwanda-wakai.net/modules/report/

スマイルアゲイン
喜ぶ者とともに喜ぶ

石油ストーブ1800台配布

被災者の元へストーブを届けるボランティアの生見さん㊧

９月末から10月初旬にかけて当機構の物資倉庫に合計1,800台のストーブが到着しました。皆様からの募金によって購入させていただいた物です。

仙台市、名取市、気仙沼市、亘理町、南三陸町などの諸教会や民生委員の方々と協力して、現地で活動しておられるNGO団体からの情報を得ながら、仮設住宅や借り上げ住宅の最も必要としておられる方々に渡るようにお届けしました。

100件以上ある仮設住宅を１件ずつ訪問しながら、ストーブ配布のボランティアに参加した生見彰啓さんは「突然の訪問に最初は戸惑いの表情を浮かべる人もいましたが、ストーブをお渡しすると、とても笑顔で喜んでくれて、僕もなんだか嬉しい気持ちになりました」と話していました。

また仙台市内にある15世帯の小さな仮設住宅にお届けした際には、自治会長さんの奥さんが「このようなご支援を受けたのは初めてです。一体どのように感謝を表したらいいのか…。」と大変恐縮しておられました。そこで、今回支援させていただくに至った経緯と多くの支援者やボランティアの方々が関わって下さっていることを説明すると、「ほんとありがたいねぇ」と何度もつぶやいておられました。

この自治会長さんからは、周辺に住んでおられる借り上げ住宅にも配りたいとの要望があり、15世帯分のストーブとは別に10台をお渡ししました。後日、感謝の報告をいただきました。

徐々に寒さの深まる東北の地の小さなコミュニティでの被災者と支援者、また被災者の方々どうしのさまざまな温かさに触れ、私たちボランティアはいつもぽかぽかと温かい気持ちでいることができます。

（報告：吉田知基）

秋の鮭漁に間に合った！

私たちは６月に、宮城県亘理郡で漁師の森敏行さんたちと出会いました。亘理・山元地区は、郷土料理『はらこ飯（鮭といくらの炊き込みご飯）』が有名です。

津波に流された網の清掃作業をするボランティア

「10月には絶対に鮭漁に出なければならない」と必死にがんばる森さん共々私たちも津波で流された漁網に絡まった、ペットボトルやガラスの破片などの瓦礫を、多くのボランティアの方々と手作業で除去しました。

鮭は４年周期で川に戻ってくるそうで、今年獲らなければ、4年後のふ化のサイクルが狂ってしまう大切な漁です。

先日森さんから私たちの元に『大漁』という写真が送られてきました。携わった者みんなが大喜びをした瞬間でした。しかし実際には作業が全部終了した訳ではありません。これからも、継続して森さんたちのお手伝いをしていきます。（報告：伊東綾）

様々な困難を乗り越えて鮭漁再開を喜ぶ森さん㊧

●東日本緊急支援募金にご協力を　郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構　記入欄に「東北地震」と明記

仙台の倉庫で物資を受け取りにきた被災者に無料でヘアカットボランティアをする美容師さんたち

関西の美容室経営グループ ラウンド2 が 仙台倉庫で ボランティアカット

ラウンド２は大阪、神戸、奈良で美容室を展開する経営者の勉強会グループです。

発起のテーマはスタッフの給料倍増を実現させよう、という目的をもって運営されている経営研究会です。

今回、東日本大震災に何か役に立てる事はないかと、震災直後から各お店で募金活動を始めました。会員の多くは阪神淡路大震災の時に被災し、中にはスタッフを亡くされた方もおられ、被災された方に対しても特別な思いがあったと思います。

（報告：ラウンド２　高峰義明）

東日本大震災があった直後に私は、いても立っても居られず１人車で新潟を経由して宮城、福島、岩手に向かいました、現地の状況は想像以上の惨状であった事はいうまでもなく、自分の無力さを痛感しただ茫然として、その時点では何が出来るのか考えすらも浮かばなかった事を思い出します。そして、 ひとまずは帰阪し義援金募金活動を始めました。

震災から半年を機にラウンド２メンバー全員が直接現地に赴き、現地の同業者や関係者から話を聞き、今後の私たちが出来る必要な支援を考えようと、今回の東北行きが決まりました。

今回の視察では、JIFHの皆様には大変お世話になりました。

ラウンド２の皆さんは、9月13日に仙台で当機構が開催した復興支援コンサート会場にも足を運んで下さり、岩橋理事長に支援金1,109,185円を手渡して下さいました。（写真前列左に高峰さん）

仙台市若林区にある支援物資倉庫にカットスペースを準備していただき、来られた方のボランティアカットをさせて頂きました。カットをさせていただいた皆さんの笑顔に触れる事ができ、人に役立つ喜びを感じるとともに、力強く生活されている皆さんに私たちが学ぶことが多くありました。

被災者と会話をしながらカットする美容師さん

また、現地でボランティア活動をされているスタッフの皆さんと被災者の方々が、家族のように接しておられる姿を見て、現場で直接人と接して信頼関係を築きながら活動をされているんだと感心もしました。

現地で感じた事ですが、まだまだ復興には時間がかかるように思います。日々その時期によって必要なものが変化しているので、やはり現地にベースをおいて活動されている、JIFHさんの重要性も増してくると思います。

それと、震災孤児や知的障害を持たれた方など社会的弱者でまだまだ支援が行き届かない方もたくさんいらっしゃると聞き、何か手助けができないかとも思っています。JIFHの皆様ももうすでに、活動されていると思いますが、このような方々に対しての支援活動も是非お願いしたいと思います。世界にはまだまだ生きることさえままならない方々もたくさんいらっしゃる事にも想いをよせていきます。今回のボランティアでは本当にJIFHの皆様にお世話になり心より感謝いたします。ありがとうございました。

●仙台市卸町東の倉庫での「物資配布」は 10 月末で終了しました。物資を提供して下さった皆様のご協力に感謝します。